

滋賀に残る昭和初期の歴史的建造物 — 『南滋賀公会所』

絆が深まり人の輪が広がっていく活動を目指して — 『ヤッサシイ会』

解説 ヤッサシイ会(南滋賀村の歴史を学ぶ会) 井田久雄

南滋賀公会所について

この公会所は、一般の公民館とは少し性格が違い、古くから地元の人々の作業場として色々な役割を果たしてきています。

現在の建物は昭和7年(1932)に滋賀村が天津市への編入時、滋賀村で管理していた作業場や、山、田畑等の村有財産を地域で活用出来る様、当時の滋賀村の村税を納めていた106名にて南滋賀志道会(現在は社団法人南滋賀志道会とし存続)を編成し、運営する事となりました。昭和9年には現在の南滋賀公会所に建て替えられ、一階は倉庫、談話室、トイレ等で、2階には約100畳の和室集会場のある本館と、1階が作業場、2階が管理人室(現在は管理人なし)と約10畳の和室がある別館から構成されています。

現在は、正面玄関は東向きで、敷地への入り口は北から入るようになっていますが、建築当時は南滋賀駅から比叡山方向に向かう道の突きあたりに、階段が設置され、上りきったところが正面玄関という配置になっていた様です。その

後、農家で牛を育てる様になり、その牛の品評会を開催し、牛の売買の場として使用する為、東側に牛を繋ぐ鉄棒を南北に設置することとなり、階段を無くし、北側から出入りできる様改良され、現在の様になったと考えられる。又、それに伴い、現在倉庫として使用されている東南の角にある建物は、牛の種付け場として建てられ現在の配置になった様です。

2階の和室集会場は100畳敷の広さにかかわらず、柱は周囲のみで室内にはない構造となっており、天井は格天井となっています。ここでは、従来より芝居、映画の上演、各行事にと様々に使われていました。現在は、ヤッサシイ会にて、舞台が作られ、地域の交流を図る為、イーチャン劇場と題して

地域のマジシャン、バンド等を招き上演、メイン題目としてヤッサシイ会メンバーによるこの地域に関係する伝承や人物を題材にして面白おかしく上演しています。又、その他地域の行事他団体活動の場として活用されています。



南滋賀公会所全景

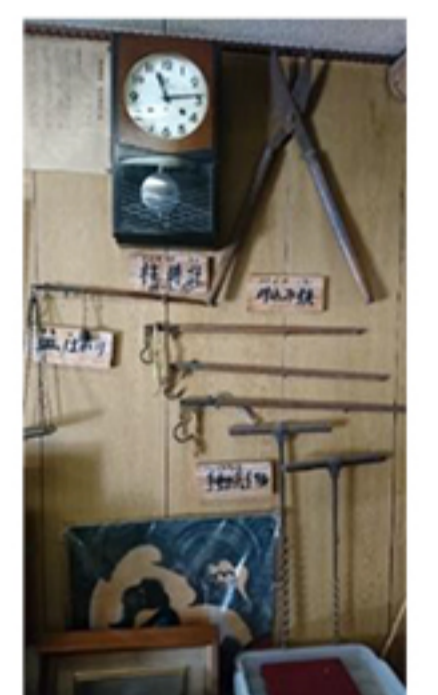


別館1階 手作りの家

南滋賀村の歴史を学ぶ会(ヤッサシイ会)について

さて、南滋賀公会所についてはこの位とし、ヤッサシイ会について紹介します。

ヤッサシイ会(南滋賀の歴史を学ぶ会)は、平成20年の始めに南志賀の農家の古い倉庫を取り壊すことになりそこに保管されていた古い農機具や製茶器具を提供していただくこととなり、平成20年3月に「南滋賀村の歴史を学ぶ会」を設立、南滋賀公会所の一部を借受け「南滋賀手作りの家」をオープンし、農機具等を展示しています。又、この地域は縄文時代の遺跡も数多く残り、大津京をはじめ、幾多の時代の要所と関わりを持つ古い村であるが、歴史的には、常に通過の村でもあり一般的に知名度が低く地元の者ですら、この豊かな歴史を知らない人が多くなっている、この南志賀(旧南滋賀村)の良さや古い歴史を見直す(再発見)きっかけとなるような取組みをしたいとの思いから発足。スタートに当たり南志賀在住の古老4人から旧南滋賀村の昔の出来事等について聞き取りをし、この活動を始めました。



活動内容としては、

- 1 南滋賀村手作りの家での展示、(竹炭・竹細工等販売)
- 2 地域の歴史勉強会
- 3 里山の竹林保全と竹炭づくり
- 4 各種イベント・納涼祭・校外学習・サマースクール・イーチャン劇場等

毎年1月又は2月に志賀小学校から校外学習としてヤッサシイ会手作りの家を

訪れ、この地域の昔の生活状況や昔使っていた道具の説明を聞き、昔の着物・下駄等着用体験、又、古い製縄機を使いながら縄作成体験。(この地域の昔の生活について学ぶ)

- 5 会員活動

地域文化の向上に向けて、竹を使用した様々な作品(竹灯籠、毎年の干支の人形等)作りを行う。この様な活動を滋賀公民館との連携し、地域人材育成事業として実施。

- 6 まちづくり活動

最後に、数々の歴史遺産に恵まれたこの地に住んでいる者として地域の良さを知り、再認識してもらえる様に、多くの地域住民の方々に参加してもらえる様な事業やイベントを企画することにより、『地域住民の絆が深まり、人の輪が広がっていく様なまちづくり』に貢献できる様今後も活動を進められる様頑張りたいと考えております。



校外学習



イーチャン劇場